

株式会社上組 2026年3月期 第2四半期決算説明会における
主な質疑応答（要旨）

Q1：上期の実績について、一過性要因を除いたベース部分の収支状況や、価格改定の効果について教えて欲しい。

A1：輸出入コンテナの取扱いや穀物類が期初想定と比べて堅調であったため、一過性要因を除いた部分でも期初予測より上振れた。価格交渉の効果面は、営業収益ベースで15億円程度となっている。こちらについても期初想定より若干の上振れがあった。

Q2：今中計5カ年の投資計画に対し投資の進捗がかなり進んでいるように見えるが、想定以上にうまくいっているのか。また結果として5カ年の投資総額がさらに積み上がる可能性もあるのか。

A2：今のところ投資計画については順調に進んでいる。新中期経営計画の策定に合わせて実施した、社内評価方法の変更や意識改革が効いているのではないかと考えている。現時点では、中計で掲げた投資計画の範囲内で進んでいると評価している。

Q3：先日、高市政権の掲げた17の成長戦略分野のひとつに港湾ロジスティクスが掲げられているが、上組に関連する点はあるか。

A3：具体的にどういった政策が打ち出されるかは伺い知れないが、貿易貨物の99%が通過する港湾の重要性にフォーカスしていただけた事は、非常に大きなことだと感じている。今後の政策に大いに期待している。

Q4：コンテナの取扱い数の伸びについて、マクロ環境以上に伸びている背景は。

A4：当社の取引船社が去年に増して取扱いを増やされた事や、一部の港で新規の扱いを始めた事が挙げられる。

Q5：P.14の投資案件の中に「系統用蓄電所の設備導入」とあるが、蓄電マーケットへの投資に対し、現時点での規模感や期間などの計画は。

A5：蓄電マーケットには力を入れていく。当社が兵庫県加西市で運営しているメガソーラーの隣接地への投資を皮切りに足元では数件を計画している。イニシャルの投資が大きいのので、補助金等を含めて採算性を見ながら、長期スパンでの投資を考えている。

Q6：足元でかなり円安が進んでいるが、中計への影響について。

A6：円安局面では、輸出においてはプラスであるが、産業構造の変化もあり輸出が大幅に拡大するとは思われない。一方、輸入貨物はコスト増となるため下振れリスクはあるものの、当社が扱う原料系の貨物が急激に減少するとは考えにくい。現状が大きな計画阻害要因になるとは考えていない。

以上